

化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会（第 25 期・第 4 回）、化学委員会 IUCr 分科会（第 25 期・第 4 回）合同分科会議事録

日時：令和 3 年 6 月 12 日（土） 13 時 00 分～14 時 30 分

場所：遠隔会議（zoom）

出席者：阿久津典子^{†*}、井上 豪^{†*}、奥部真樹^{†*}、片岡幹雄^{†*}、上村みどり^{†*}、栗原和枝^{†*}、
黒田玲子^{†*}、小島優子[†]、小林昭子[†]、佐々木 園[†]、菅原 正[†]、菅原洋子^{†*}、高田昌樹^{†*}、
難波啓一^{†*}、西野吉則^{†*}、野田岳志[†]、森吉千佳子^{†*}、山下敦子[†]

欠席者：秋山修志[†]、高原淳^{†*}、富安亮子^{†*}

（[†]結晶学分科会委員、^{*}IUCr 分科会委員）

議題：

1. 化学委員会 IUCr 分科会

(1) IUCr2021 の準備状況について高田 IUCr 分科会委員長より、IUCr2021 の現状について以下の説明があった。

- ・IUCr2021（プラハ）は COVID-19 パンデミックを受けてハイブリッド開催されるが、現地参加は難しい国が多く、財政的に厳しい状況にあり協力が必要である。
- ・日本からの渡航については、6 月 7 日よりチェコへの入国規制措置は緩和されたが、日本からチェコへの渡航はレベル 3（渡航中止勧告）の状況にある。
- ・本来は IUCr 会期中に行われる EC と各コミッション、リージョナルアソシエーションとのミーティングが、今回は 6 月中に zoom 開催される。
- ・IUCr2026 にはカルガリー（カナダ）が立候補している。
- ・IUCr2023（メルボルン）は、当初の予定通り 2023 年に行われる。

総会で、次期執行部および EC メンバーの選挙が行われるが、その候補の紹介が併せてなされた。

2. 物理学委員会・化学委員会結晶学分科会

(1) 公開 web シンポジウム「COVID19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」開催記録について、菅原洋子結晶学分科会委員長より、第 3 部査読の結果が報告された。

- ・記録としての目的を十分に果たしているとの評価を得た一方、表記の統一、見出しやインデントを使用して読みやすくすることなどの必要性が指摘された。
- ・来週を目処に修正版を提出することが求められている。

(2) 結晶学にかかわる新しい技術の展開と推進について、菅原洋子委員長より、日本結晶学会 70 周年記念行事企画の現状が説明された。

- ・昨年、日本結晶学会 70 周年記念行事が Cryo-EM を中心に結晶学にかかわる新しい技術の展開と推進をテーマとして開催される予定であった。分科会（第 24 期）としては共催を検討していたが、COVID-19 パンデミックにより 2021 年に延期された。現在、日本結晶学会で企画が進んでおり、日本結晶学会年会（於北海道大学）の会期中にハイブリッド開催になる見込みである。
- ・学術会議後援の形で支援する方向で分科会の活動を進めることを承認した。

- (3) International Year of Basic Science for Sustainable Development (IYBSSD2022)への対応について
- ① 菅原洋子結晶学分科会委員長より、IYBSSD2022 (世界基礎科学年)について以下の説明が行われた。
- ・ IYBSSD2022 は、IUPAP の President の M. Spiro を Chair として企画が進んでおり、IUCr は支援団体となっている。
 - ・ 野尻物理学委員会委員長がまとめ役となり、5 月に学術会議国際委員会のもとに IYBSSD2022 推進を目的とする分科会の設置の要望書を提出した。
- 日本学術会議としての IYBSSD2022 の活動に、結晶学分科会および IUCr 分科会が参加すること、連絡会議（仮称）が成立した場合、結晶学分科会から上村みどり幹事、IUCr 分科会から井上豪副委員長が委員として参加することが承認された。
- ② IYBSSD2022 にかかわる結晶学分科会・IUCr 分科会としての活動について意見交換を行った。広義の結晶学と SDG's は様々な形でかかわっている。これを再認識し、若い人、さらに一般の人へ基礎科学の果たしている役割を伝える機会として、IYBSSD2022 とリンクしたシンポジウムを企画する方向で、今後、協議を進めることとなった。

3. その他

- (1) 日本学術会議問題について、菅原結晶学分科会委員長より以下の情報提供がなされた。
- ・ 梶田会長のインタビュー動画が公開された。
 - ・ 日本学術会議の組織形態のあり方について議論する有識者会議の初回会合が 5 月 20 日に開催された。
 - ・ 学術会議としてほぼ月 1 回のペースで記者会見が行われ、直接・間接に学術会議の活動を広報する努力がなされている。
- (2) 化学委員会の活動について、菅原結晶学分科会委員長より以下の報告があった。
- ・ 6 月 8 日に、分子研所長招聘会議が化学委員会と分子研、日本化学会戦略企画委員会の主催で開催された。「広がる化学系博士人材の未来」をテーマに 4 件の講演があり、博士はキャリアパスに不利ではないことなどが議論された。web 会のメリットとして参加者が 200 名を超え、学生の参加者も 100 名（内数）を超えた。
 - ・ 化学委員会合同分科会が 12 月 24 日にハイブリッド開催される予定である。例年通り、午前は化学委員会報告と講演会、午後に分科会が開催される。
- (3) 今後の分科会開催予定について確認した。
- ① 12 月 24 日合同分科会に合わせて開催する（予定）。
 - ② IYBSSD2022 に対応した活動について協議するため、10 月頃に分科会を開催する（予定）。
- (4) 菅原結晶学分科会委員長より、日本学術会議総会が 10 月 5 日～7 日に開催される。議事の大部分は公開で行われ、傍聴が可能であることが情報提供された。